

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立勝北中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- ◎学校教育目標
1. 幅広い知識と教養をそなえ、真理を追求する生徒の育成
 2. 豊かな情操と道徳心を培う生徒の育成
 3. 健やかな心身を養う生徒の育成

今年度の指導の重点

- ・学習習慣の確立と基礎学力の充実を図る。
- ・道徳的価値の内面化と判断力を育てる。
- ・友を思いやる心情を培い、豊かな情操を育てる。
- ・個性の発見を促し、自己実現の達成を図る。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- <全国 3年生>
- 国語A、数学AB共に県平均を下回っている。
 - 国語Bでは県平均を上回り、書くこと、読むことにおいての伸びがみられる。
 - 国語については説明文を読んだり、きちんと情報を読み取る部分について弱さがみられる。語句の意味や、漢字の読み書きについては力がついてきている。
 - 数学については分数や小数において弱さがみられ、想像し考える能力が弱い。数量や図形に関する知識理解については改善がみられる。
 - 全般的に法則や情報を読み取る力、筋道を立てて考える力に改善が必要である。
- <県 1年生>
- すべての教科において県平均を下回っている。
 - 全般的に活用の部分に弱さがみられるが、3年間の標準スコアの状況を見ると国語、算数、理科ではほぼ平均に近づいている。
 - 言語についての理解、数量や図形についての知識、観察・実験の技能については県平均を上回っている。

【学習状況調査の結果】

- 全般的に学校は楽しく、友人との交流関係は良好である。
- 自己肯定感も安定した数値を見せている。家庭環境等の影響とも考えられるが、朝食や家庭での不規則な生活をおくる生徒が平均値より多い状況である。
- 読書の時間や読書そのものが好きという生徒の割合が徐々に少なくなってきた。
- 人の話は積極的に聞こうとするが、自分の意見をきちんと述べることのできる割合が少ない。
- マスメディアに関わる時間は平均的に少ないが、家庭学習時間も少ない状態である。
- ボランティア活動や地域の行事への参加、学校の規則を守ろうと意識する生徒は多い状態である。

成果と課題

- 授業の約束や、小テスト、漢字ノートなどの取り組みが定着しつつあり、成果が現れてきている。
- 家庭学習時間の調査やノーメディアへの取り組みについては徐々に成果が現れてきている。
- 教科の「授業内容がわかる」「教科の学習が好き」と答えている生徒が増えてきており、小中連携及び研究の成果が出てきている。
- 読書に対しては平均値より高い状態ではあるが、徐々に興味は薄れている状況でもある。現在行っている【読み聞かせ】の活動など継続して取り組みたい。
- 毎月の交通立ち寄りによる声かけ運動や地域の恒例行事への参加など、地域との連携が定着しており、あいさつなどについて好結果につながっている。
- 自分の意見をまとめたり、きちんと整理して相手に伝えることなどについては全般的に本校の課題として考えている。

課題に対応した改善方法

- 本年度の本校での校内研究として、学力向上、集団づくり、学習意欲向上の3部会での研究を進めている。
- ・学力向上部会では[授業5]を基に研究授業を通し研修を進めている。考える時間の確保、自分の意見をまとめる活動、振り返りプリントの活用を推進している。本年度は10月下旬より、全校での「ランクアップチャレンジ」の取り組みを始める。振り返りプリント集等より選択した基礎問題を小プリントとして学習させ(学習支援をしながら)、ステップアップのテストをクリアすることで次のステップにチャレンジさせていく取り組みを行う。
- ・集団づくり部会では生徒の自治力の向上を目指し、自ら考え行動できる力を委員会活動などの生徒会活動を中心に取り組んでいる。
- ・学習意欲向上部会では小学校との連携をさらに強化し、学習の決まり、家庭学習の取り組み、ノーメディア活動を推進している。
- 3年生については10月より基礎基本の定着を図る目的で、5教科の放課後学習を行う。
- 読み聞かせの取り組みや朝読書の取り組みを継続して行うと共に、文化図書委員会の活動と連携して、読書習慣の一層の定着を図る。
- 効果が現れているので、引き続きノーメディアの取り組みを小中連携の一環として行う。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- ランクアップチャレンジの取り組み(2学期)
- 授業の振り返りプリントの活用(授業での活用状況確認2学期、以降校内での全教科活用へ)
- 生徒が自ら考え行動できる取り組み(生徒集会など)の実施(年度末まで)
- 小中連携での家庭学習時間、ノーメディアの取組の継続、学習の決まりの見直し(年度末まで)
- 問題データベース等の活用について各教科での活用を検証、次年度に生かす。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 国語では「情報を読み取る部分」や「自分の考えを持つ分野」での正答率を県平均(あるいは7割)へ引き上げる。
- 数学では基礎的な分野(小数、分数、方程式等)の正答率を県平均(あるいは6割)へ引き上げる。
- 規則正しい生活、家庭学習時間の割合を全国平均に引き上げる。